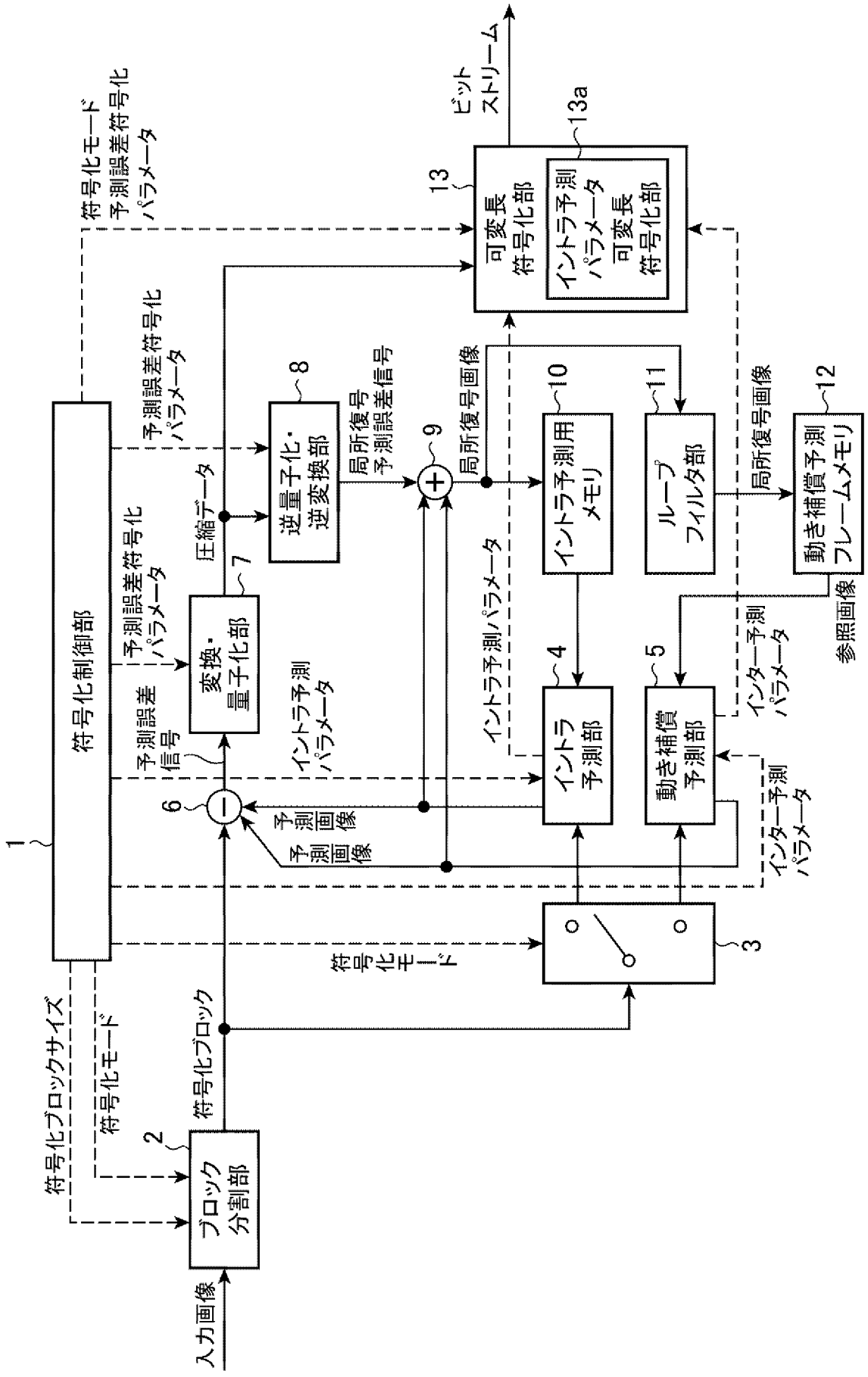
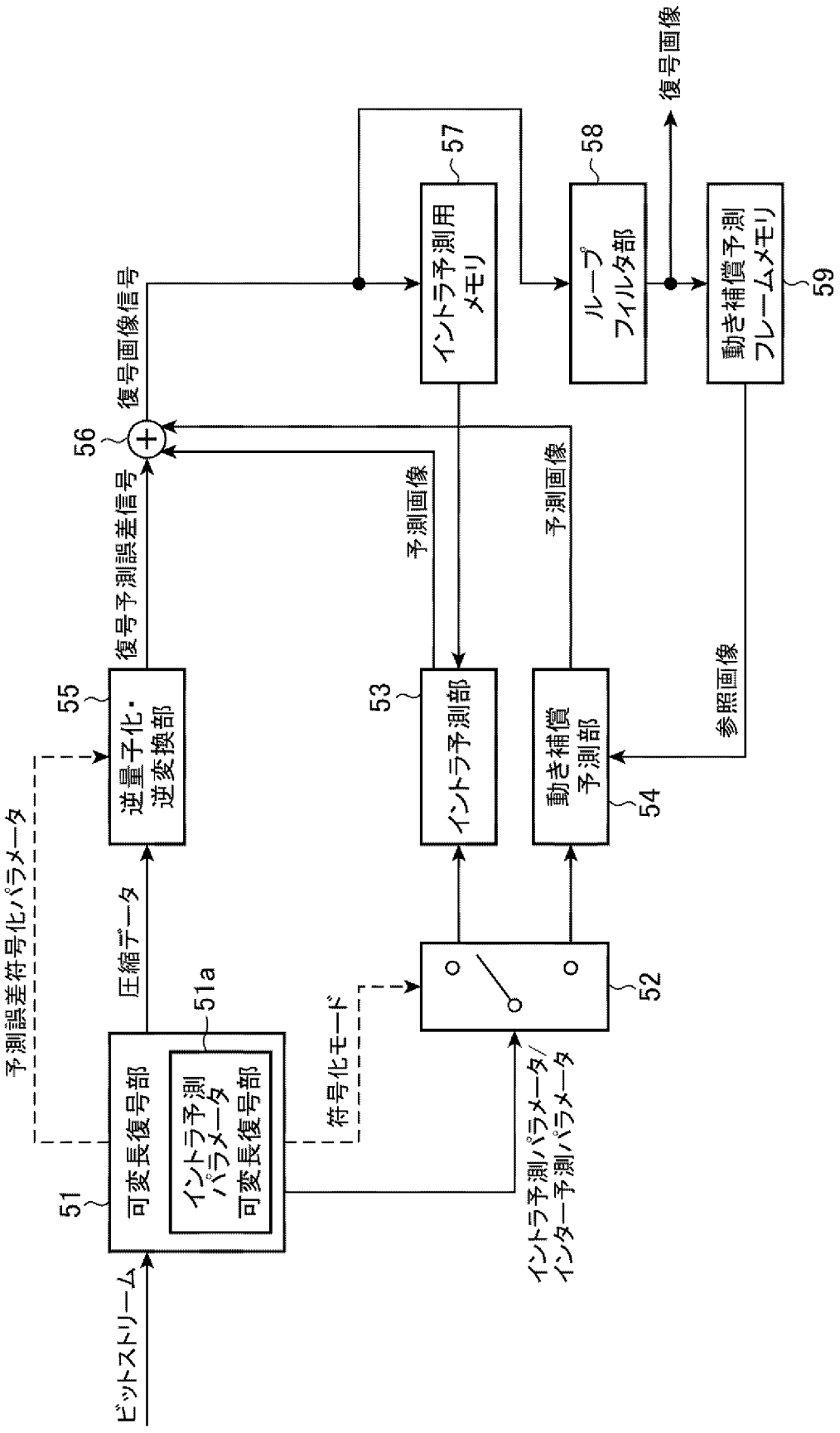
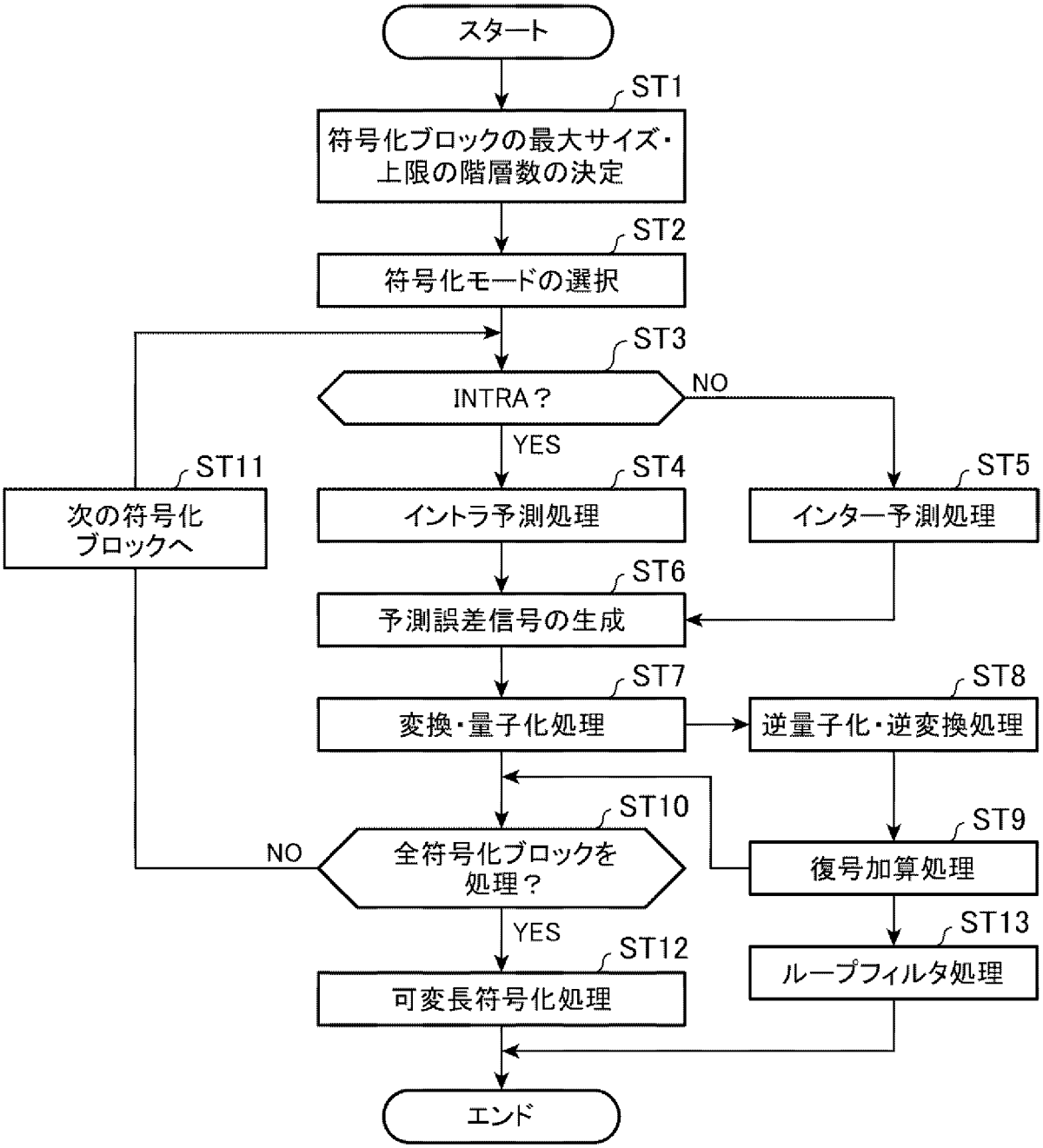
[図1]


符号化制御部
1
ブロック分割部
2
3
イントラ予測部
4
動き補償予測部
5
6
変換・量子化部
7
逆量子化・逆変換部
8
9
イントラ予測用メモリ
10
ループフィルタ部
11
動き補償予測フレームメモリ
12
可変長符号化部
13
イントラ予測パラメータ可変長符号化部
13a
入力画像
符号化ブロックサイズ
符号化モード
符号化ブロック
予測誤差符号化パラメータ
予測誤差信号
圧縮データ
局所復号予測誤差信号
局所復号画像
イントラ予測パラメータ
インター予測パラメータ
予測画像
参照画像
ビットストリーム

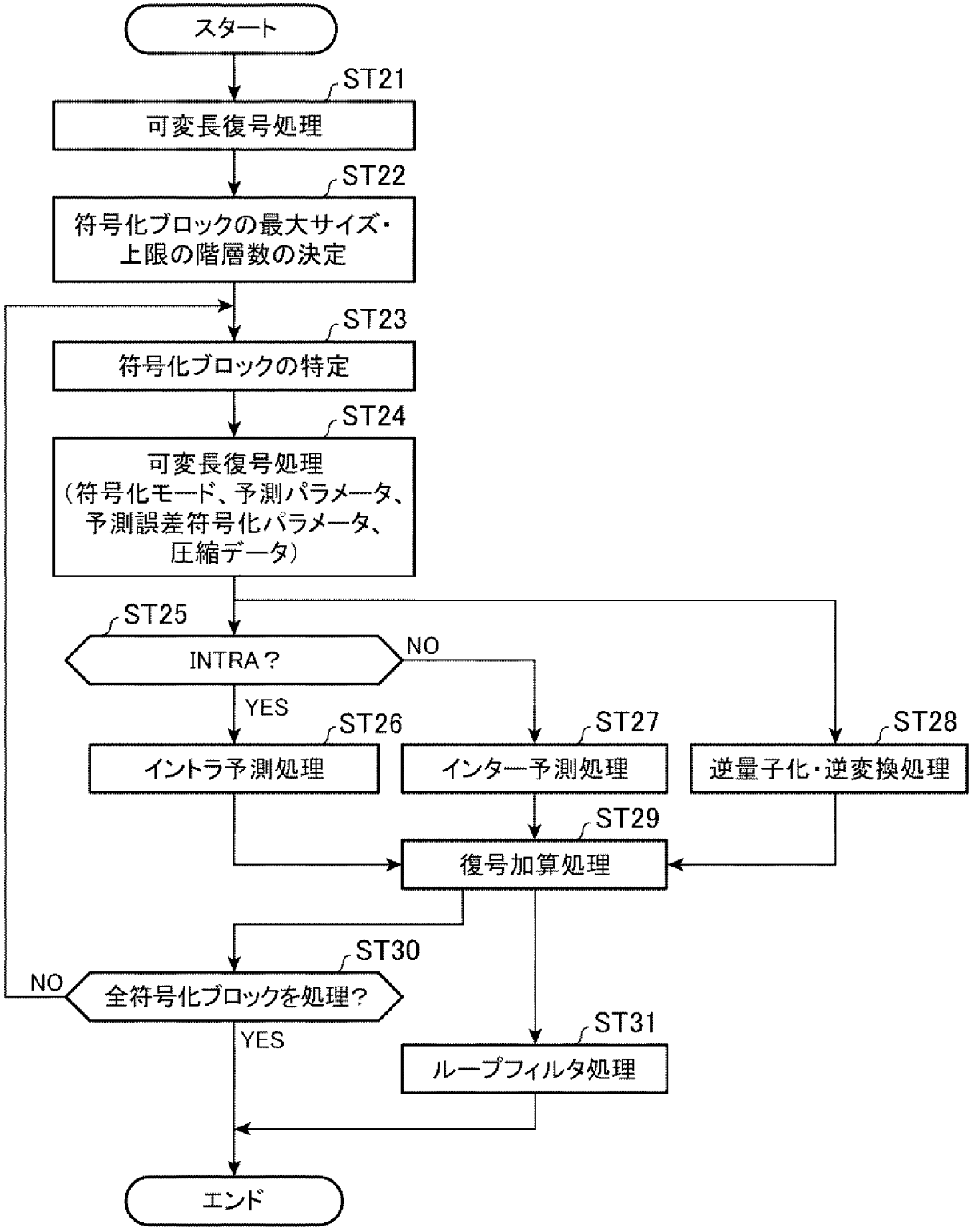
[図2]


ビットストリーム
51
可変長復号部
51a
イントラ予測
パラメータ
可変長復号部
予測誤差符号化パラメータ
圧縮データ
符号化モード
イントラ予測パラメータ/
インター予測パラメータ
逆量子化・
逆変換部
55
復号予測誤差信号
56
復号画像信号
予測画像
予測画像
イントラ予測部
53
動き補償
予測部
54
参照画像
イントラ予測用
メモリ
57
ループ
フィルタ部
58
復号画像
動き補償予測
フレームメモリ
59

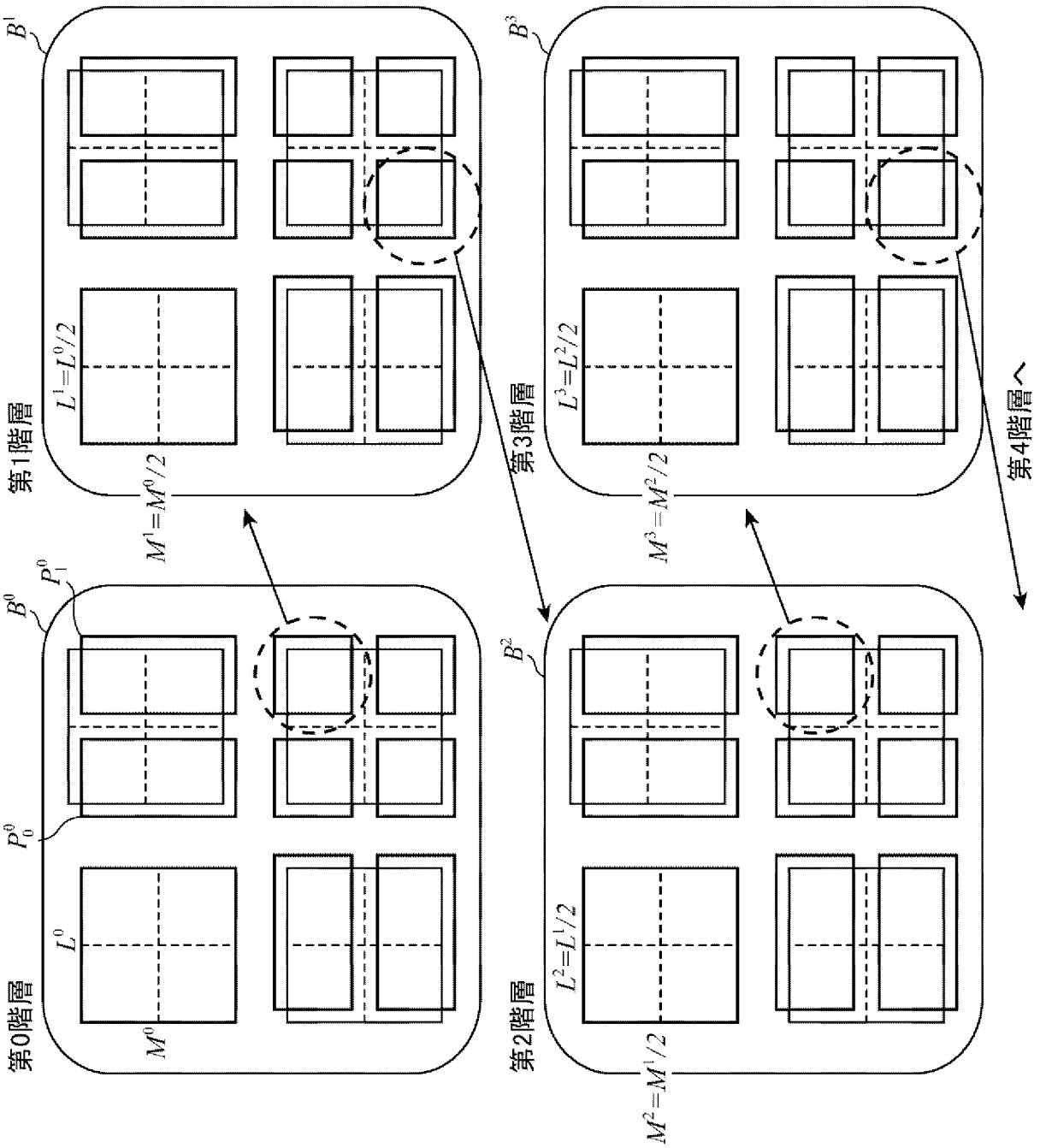
[図3]


スタート
ST1
符号化ブロックの最大サイズ・上限の階層数の決定
ST2
符号化モードの選択
ST3
INTRA？
NO
YES
ST11
次の符号化ブロックへ
ST4
イントラ予測処理
ST5
インター予測処理
ST6
予測誤差信号の生成
ST7
変換・量子化処理
ST8
逆量子化・逆変換処理
ST10
全符号化ブロックを処理？
NO
ST9
復号加算処理
YES
ST13
ループフィルタ処理
ST12
可変長符号化処理
エンド

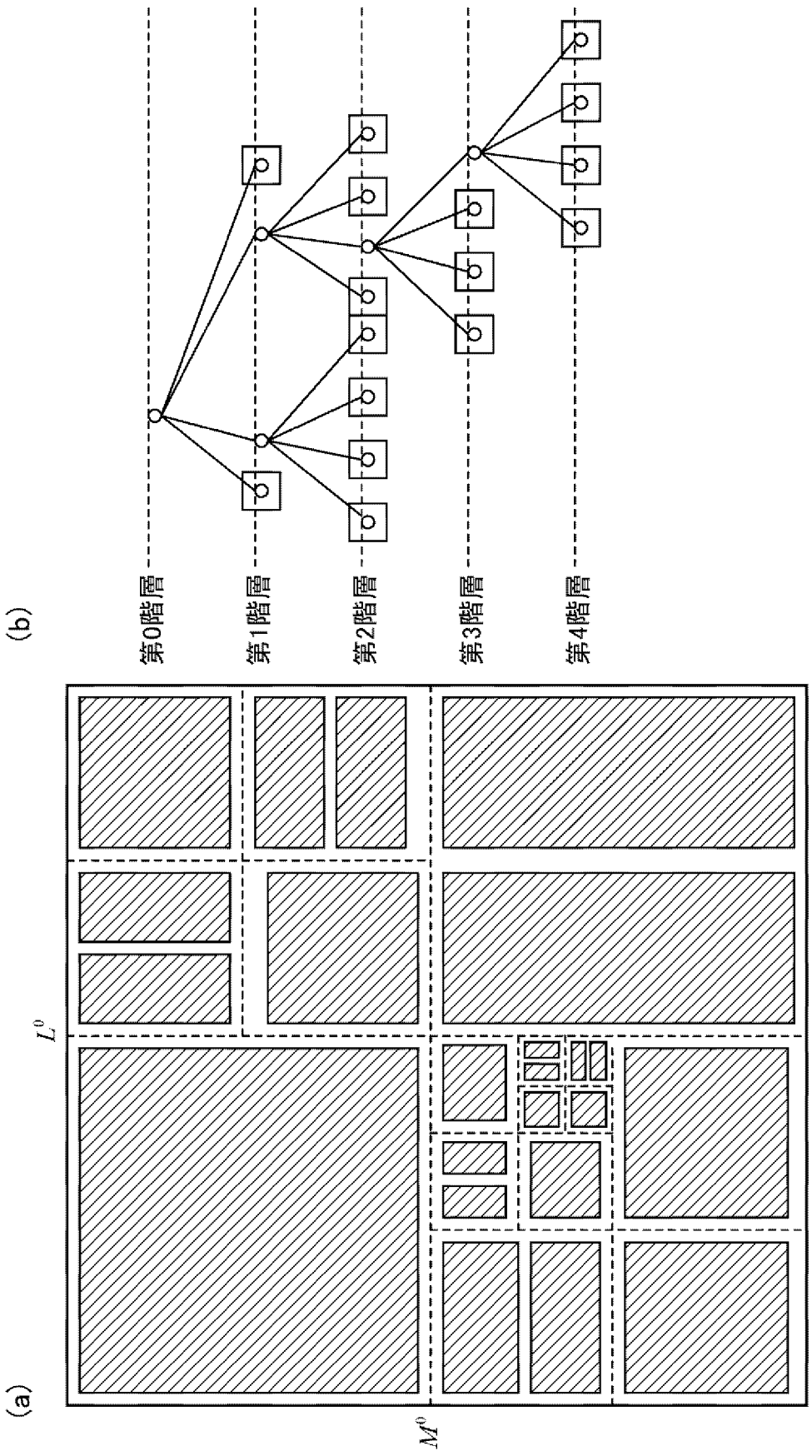
[図4]


スタート
ST21
可変長復号処理
ST22
符号化ブロックの最大サイズ・
上限の階層数の決定
ST23
符号化ブロックの特定
ST24
可変長復号処理
（符号化モード、予測パラメータ、
予測誤差符号化パラメータ、
圧縮データ）
ST25
INTRA？
NO
YES
ST26
イントラ予測処理
ST27
インター予測処理
ST28
逆量子化・逆変換処理
ST29
復号加算処理
ST30
NO
全符号化ブロックを処理？
YES
ST31
ループフィルタ処理
エンド

[図5]


第0階層
第1階層
第2階層
第3階層
第4階層へ
B^0
B^1
B^2
B^3
P_0^0
P_1^0
L^0
M^0
$L^1=L^0/2$
$M^1=M^0/2$
$L^2=L^1/2$
$M^2=M^1/2$
$L^3=L^2/2$
$M^3=M^2/2$

[図6]

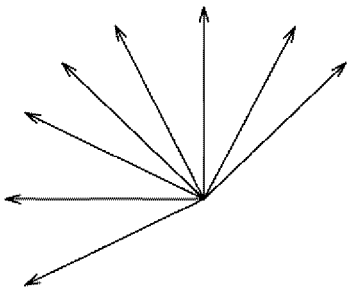


[図7]

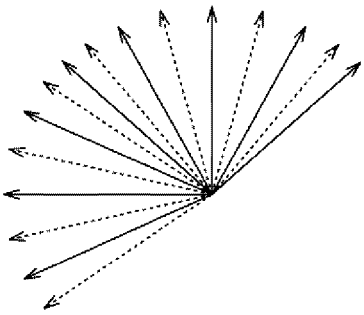
イントラ予測モード インデックス	イントラ予測モード
0	垂直方向予測
1	水平方向予測
2	平均値予測
3～N-1	斜め方向予測

N:イントラ予測モード数

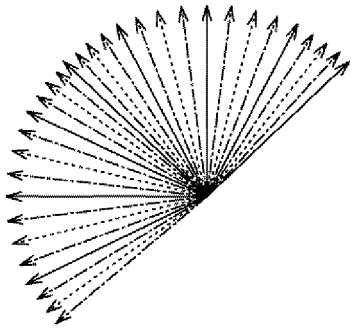
N=9 の場合の方向性予測(8モード)



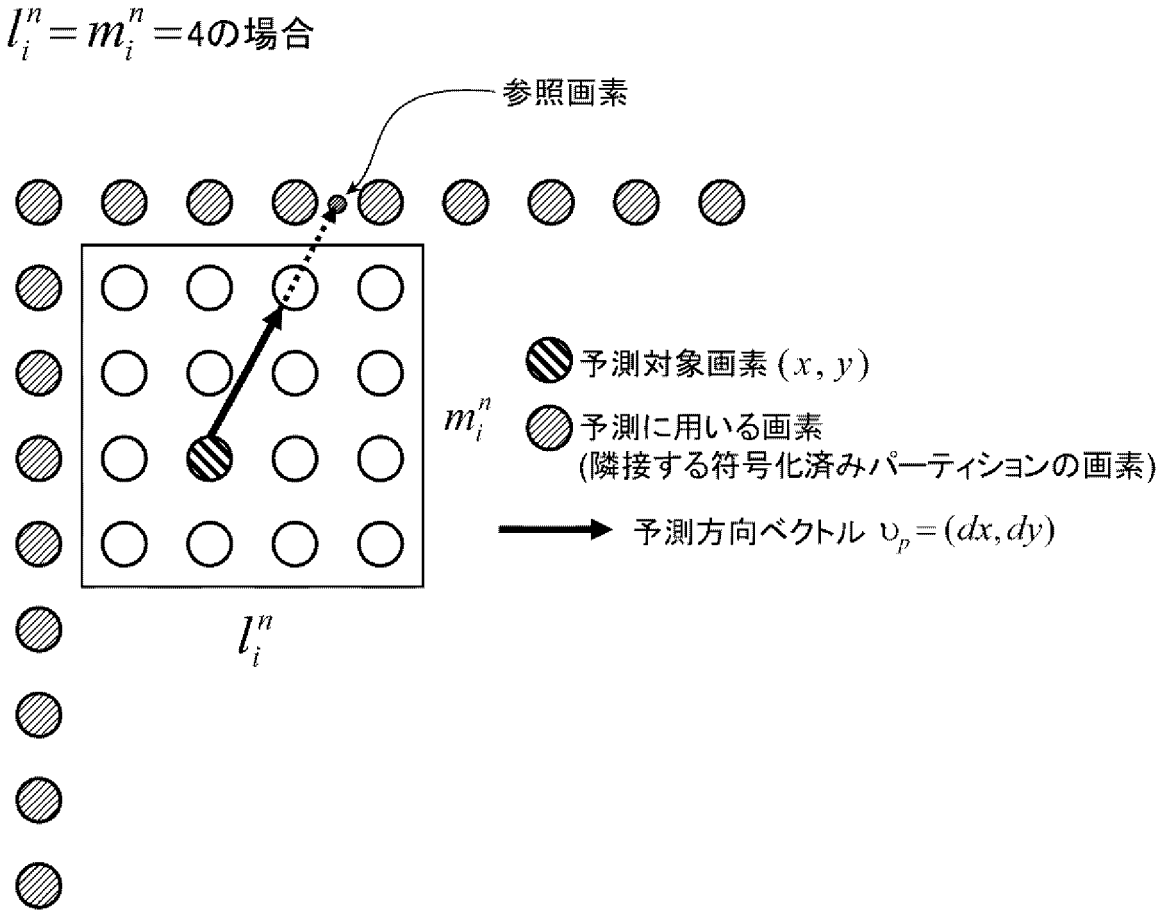
N=17 の場合の方向性予測(16モード)



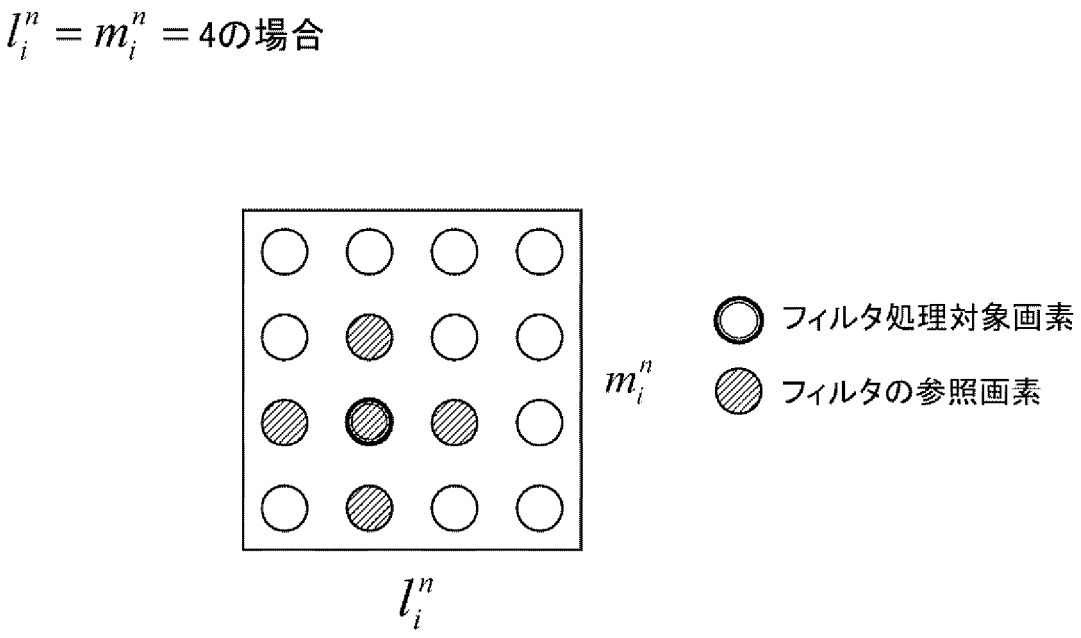
N=33 の場合の方向性予測(32モード)



[図8]


$l_i^n = m_i^n = 4$の場合
参照画素
予測対象画素 (x, y)
予測に用いる画素
(隣接する符号化済みパーティションの画素)
予測方向ベクトル $\upsilon_p = (dx, dy)$
m_i^n
l_i^n

[図9]


$l_i^n = m_i^n = 4$の場合
フィルタ処理対象画素
フィルタの参照画素
m_i^n
l_i^n

[図10]

